

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 登録実用新案公報(U)

(11) 実用新案登録番号

実用新案登録第3103327号

(U3103327)

(45) 発行日 平成16年8月5日(2004.8.5)

(24) 登録日 平成16年5月26日(2004.5.26)

(51) Int.Cl.⁷

A61B 1/12

F I

A61B 1/12

評価書の請求 未請求 請求項の数 1 O L (全 5 頁)

(21) 出願番号 実願2004-548 (U2004-548)
 (22) 出願日 平成16年2月13日(2004.2.13)

(73) 実用新案権者 591127825
 株式会社アマノ
 静岡県磐田郡豊田町東名65
 (72) 考案者 長尾 仁
 静岡県磐田郡豊田町東名65 株式会社ア
 マノ内
 (72) 考案者 渡部 純
 静岡県磐田郡豊田町東名65 株式会社ア
 マノ内

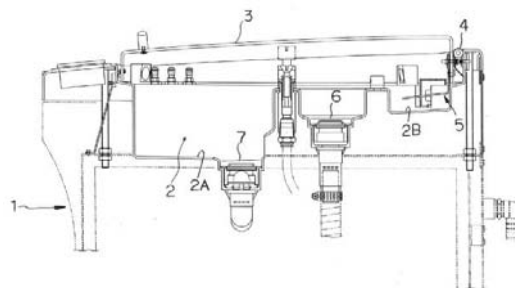
(54) 【考案の名称】 内視鏡洗浄消毒装置

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】内視鏡洗浄消毒装置において、内視鏡挿入部の未洗浄や未消毒を防止する。

【解決手段】洗浄槽2の上面を開閉するカバー3の内面に内視鏡挿入部の浮き上がりを防止する押さえ金具5を設置した。洗浄槽2の最深部2Aに操作部Aが戴置され、傾斜浅部2Bに挿入部Bが巻回しセットされている。尚、液面はオーバーフロー排水口6の存在により、それ以上の深さには達しない。これにより、開閉カバー3の「閉」操作に連動して、浮き上がり防止金具5により、内視鏡挿入部はその上面2点が適当な間隔を置いて押さえつけられるため、確実に液面下に沈み込み、挿入部の浮き上がりによる未洗浄、未消毒といった不具合は、完全且つ確実に阻止できる。

【選択図】 図2



【実用新案登録請求の範囲】

【請求項 1】

洗浄槽 2 の上面を開閉するカバー 3 の内面に、内視鏡挿入部 B の浮き上がりを防止する金具 5 を設置したことを特徴とする内視鏡洗浄消毒装置。

【考案の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

この考案は内視鏡洗浄消毒装置における内視鏡挿入部の浮き上がり防止に関するものである。

【背景技術】

【0002】

内視鏡洗浄消毒装置にあっては、洗浄槽内に内視鏡を納めて、汚れた内視鏡を水道水や洗剤により洗浄し、次いで、消毒液中に所定時間浸漬して、消毒する方法がよく知られている。こうした内視鏡洗浄消毒装置においては、洗浄槽内の最深部に内視鏡の操作部を納め、該操作部に接続する挿入部分を巻回状態でセットして、上述の如き所望の洗浄および消毒が行われる。斯かる内視鏡洗浄消毒装置にあっては、ランニングコストの低減目的から高価な消毒液の使用量を出来る限り少なく望んでいることと、装置自体の小型化の要望とが相俟って洗浄槽における設定水位は、内視鏡全体が液面に没するギリギリの深さに設計されている。従って、FRP等によって成形される洗浄槽の底部断面は、内視鏡の操作部分のセット位置と挿入部のセット位置とでは必然的に深さが異なり、巻回わされた挿入部分の下面は比較的急勾配の傾斜面となって操作部がセットされる最深部へ連がっている。

【0003】

ところで、周知の通り内視鏡における上記挿入部は、比較的弾性に富んだ材料により管状に作製されているため傾斜面に沿ってセッティングされる当該挿入部の一部が、その弾力により浮き上がりする現象が見られる。従って場合によっては、液面上に突出してしまった部位の未洗浄・未消毒といった不具合発生の恐れがあった。

【0004】

【特許文献 1】特開 2000-316808 号広報

【特許文献 2】特公昭 62-44488 号広報

【考案の開示】

【考案が解決しようとする課題】

【0005】

本考案は、上述した不具合を簡単且つ確実に防止せんとしたものである。

【課題を解決するための手段】

【0006】

本考案の請求項 1 記載の内視鏡洗浄消毒装置は、洗浄槽の上面を開閉するカバーの内面に内視鏡挿入部の浮き上がりを防止する押さえ金具を設置したことを特徴とする。

【考案の効果】

【0007】

上記請求項 1 記載の内視鏡洗浄消毒装置によると、浮き上がり防止用の押さえ金具を開閉カバーの内面に設けたため、カバーの「閉」操作に連動して浮き上がり防止機能が自動的に発揮されるので、簡易にして確実に上述した従来の不具合が解消されるものである。

【考案を実施するための最良の形態】

【0008】

以下、本考案を附图実施例に基づいて説明する。図中 1 は装置本体、2 は本体 1 の上部に設けられる洗浄槽、3 は洗浄水等の飛散防止用の開閉カバー、FW は内視鏡でその操作部と挿入部を各々符号 A 及び B で示す。該内視鏡 FW は図 2 の如く、洗浄槽 2 の最深部 2 A に操作部 A が戴置され、傾斜浅部 2 B に挿入部 B が巻回しセットされている。尚、L は液面でオーバーフロー排水口 6 の存在により、それ以上の深さには達しない。

10

20

30

40

50

【 0 0 0 9 】

そして、上記カバー 3 の開閉蝶番 4 には、線材を折曲加工した浮き上がり防止金具 5 がプレート 5 A を介してカバー 3 の内面に共締めされている。また、上記浮き上がり防止金具 5 の押さえ部分 5 B は、洗浄槽 2 の傾斜底面と所定間隔をもって略並行となるよう予め折曲されているものである。尚、図中 7 は排水口、8 は挿入部の巻回わし用ガイド部材を各々示す。

【 0 0 1 0 】

而して、開閉カバー 3 の「閉」操作に連動して、浮き上がり防止金具 5 により、内視鏡挿入部はその上面 2 点が適当な間隔を置いて押さえつけられるため、確実に液面下に沈み込み、該挿入部 B の浮き上がりによる未洗浄、未消毒といった不具合は、完全且つ確実に 10 阻止できるものである。

【 図面の簡単な説明 】

【 0 0 1 1 】

【 図 1 】 本考案の実施例を示す平面図である。

【 図 2 】 図 1 の I - I 線断面図である。

【 図 3 】 本考案の要部の拡大平面図である。

【 図 4 】 本考案の要部の縦断側面図である。

【 図 5 】 本考案で使用される主要部品の斜視図である。

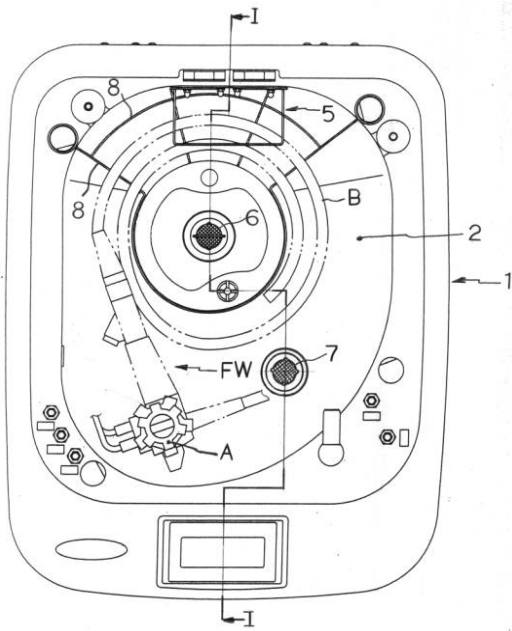
【 符号の説明 】

【 0 0 1 2 】

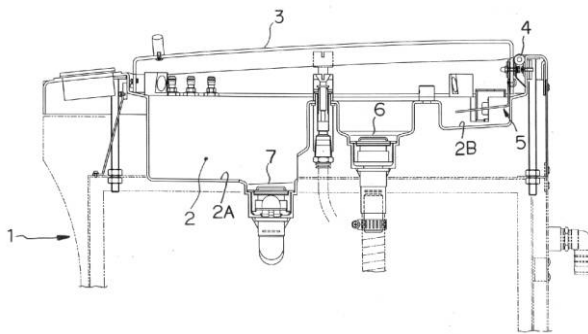
20

1	本体
2	洗浄槽
3	カバー
4	蝶番
5	浮き上がり防止金具
F W	内視鏡
A	操作部
B	挿入部
L	液面

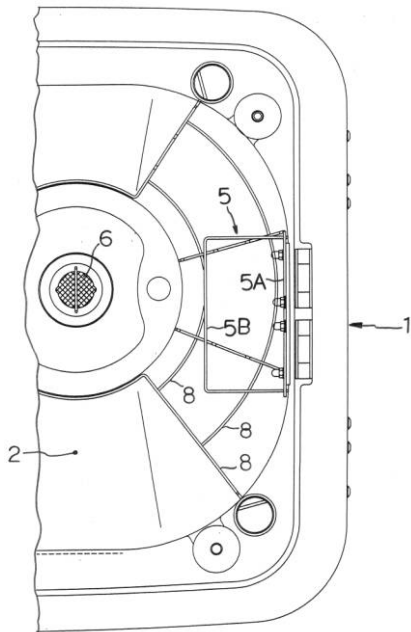
【図 1】



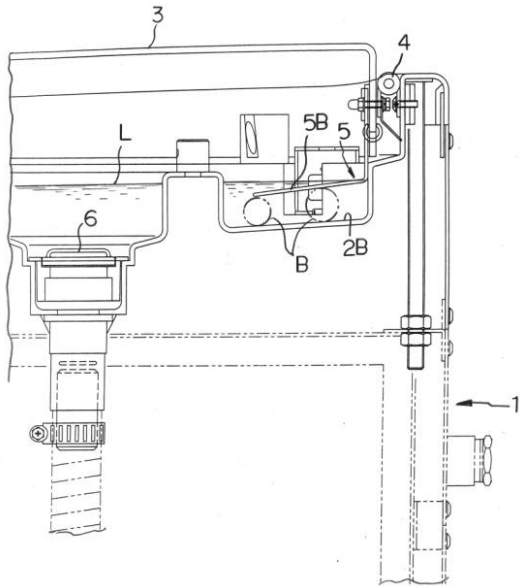
【図 2】



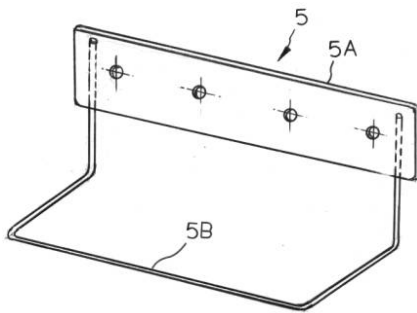
【図 3】



【 図 4 】



【 図 5 】



专利名称(译)	内窥镜清洗和消毒设备		
公开(公告)号	JP3103327U	公开(公告)日	2004-08-05
申请号	JP2004000548U	申请日	2004-02-13
[标]申请(专利权)人(译)	天野股份有限公司		
申请(专利权)人(译)	有限公司天野		
当前申请(专利权)人(译)	有限公司天野		
[标]发明人	長尾仁 渡部純		
发明人	長尾 仁 渡部 純		
IPC分类号	A61B1/12		
FI分类号	A61B1/12		
外部链接	Espacenet		

摘要(译)

要解决的问题：为防止在内窥镜清洁/消毒设备中对内窥镜插入部件进行不清洁和未消毒。 SOLUTION：用于防止内窥镜插入部分升起的固定金属配件5安装在可打开和关闭清洁槽2上表面的盖3的内表面上。操作部A被放置在清洁槽2的最深部2A上，插入部B被卷绕并设置在倾斜的浅部2B上。由于存在溢流排出口6，液体表面的深度不会超过该深度。结果，与打开/关闭盖3的“关闭”操作相结合，防浮动金属配件5以适当的间隔在其两个上表面处按压内窥镜插入部，从而将其牢固地沉入液体表面下方。可以完全并可靠地防止由于插入部分的插入和浮动而引起的诸如不清洁和未消毒的问题。 [选择图]图2

